

令和7年度
事業報告書

社会福祉法人 中日新聞社会事業団

はじめに

子どもの「学び」を守る

中日新聞社会事業団
理事長 林 寛子

今年も三月に、中日青葉学園恒例の巣立ちの会が行われた。これは卒業式ならぬ卒園式。学園を出て家庭へ帰る子、独り立ちして進学する子、就職する子……年齢や、在園した期間、これからの生活はさまざまだが、それぞれが新しい道に踏み出してゆく。職員はじめ、学校の先生、日ごろお世話になっているボランティア、学園の子どもたち、みんな一緒になって卒園生のこれからの幸多かれと巣立ちを祝う。

メインイベントの卒園生による作文披露の場面では、楽しい思い出や職員との長年にわたる深いかかわり、感謝の言葉などが時に声を詰まらせて語られ、涙を誘われた。

卒園生の中に進学支援金を受け取って進学する子が今年は二人いた。中日新聞社会事業団では「進学支援基金」を設け、毎年学園を出て進学する卒園生に入学金・学費の援助を行っている。二人は今春、高校を卒業し、志望した進学先で学び始める。

面接に立ち会った際、それぞれ将来の職業への希望が明確であり、同時に自分の適性を考えたうえでの進路選択をしており、感心させられた。

支援金は、進学先の大学・専門学校を卒業するまで続けられる。「いずれ児童施設で働きたい」と進学する子もいる。良い学生生活をと願うばかりだが、気がかりは昨今の物価高だ。いつの時代も子どもや若い世代が、世相の影響を最も受けやすいと痛感する。

中日青葉学園が設立されたのは、昭和 35(1960)年。昭和 32 年に虚弱児施設建設が決定され、その 3 年後にスタートしている。開設当時は、戦後の混乱期を背景に、結核のアフターケアのための診療所的色彩が強かったという。心臓疾患、ネフローゼ、喘息など体の弱い子の療育も必要とされた。それが、医療の進歩もあって虚弱児は減り、次第に登校拒否、不登校といわれるこどもたちの入所が増えてゆく。さらにそうした時期を経て、現在では被虐待児、発達障害児が多くなっている。

いま国際情勢は不安定さを増し、国内の経済・社会状況に暗い影を落としている。物価高は家計を圧迫し、子育て世帯の困窮化はますます進むとみられる。子どもをめぐる環境への影響は、育児放棄や虐待などと結び付いて懸念されるが、子どもの当然の権利である「学び」への甚大な影響も無視できない。

子どもの福祉の課題が多岐にわたるなか、「子どもの学ぶ権利」を守ることの重要さにも、一層留意してゆきたい。

本部(名古屋)

主催・共催・後援事業は、108件(うち1件中止)を実施した。また、法人運営が円滑に進むよう、各支部と緊密な連絡をとりながら取り組みを実施した。

◇社会福祉事業

(1) 児童福祉施設等支援事業

愛知県児童福祉施設長会や名古屋市児童養護連絡協議会などが主催する文化、スポーツ事業などについて共催、後援事業として支援を行った。



(2) 社会福祉事業助成金配分事業

・愛知、岐阜、三重県の社会福祉施設、団体の社会福祉事業に対して、1件あたり最大200万円の助成を行った。7月1日から8月29日まで募集したところ26件の応募があり、審査の結果、14件2192万円を助成した。

	申請団体	申請施設	種別	申請内容
愛知県	社会福祉事業団 半田同朋園	半田同朋園	母子生活支援施設	エアコンの取替
	一般社団法人 こみゆこみゆ	障害者多機能型事業所 WORKHOSE、ベーズはうす	就労継続支援B型 自立訓練(生活訓練)	車両購入
	社会福祉法人 輪音	輪音ホーム、さくらの杜ヘルパーステーション	グループホーム 生活介護事業所	車両購入
	特定非営利活動法人 レインボー	ワーキングファクトリー Reflection	就労継続支援B型 就労移行支援	車両購入
	社会福祉法人 TUTTI	TUTTI	就労継続支援B型 生活介護	空き缶プレス機の購入
	特定非営利活動法人 きらら	ともにハウス	グループホーム	電動ベッド、ダイニングチェアの購入
	特定非営利活動法人 障がい者自立支援センターなごや	マーム	就労選択支援センター	ワークサンプル教材と作業台の購入
	一般社団法人 愛知県聴覚障害者協会	東三河聴覚障害者支援事業所 笑おう會	地域活動支援センター	車両購入
岐阜県	社会福祉法人 岐阜市社会福祉事業団	ワークサポートやないづ	就労継続支援B型事業所 生活介護事業所	車両購入
	社会福祉法人 羽島郡福寿会	リバーサイド笠松園	特別養護老人ホーム	ストレッチャー浴槽の更新
三重県	社会福祉法人 みどり自由学園	みどり自由学園	児童養護施設	遊具の撤去・整備
	社会福祉法人 桑名すずらん福祉会	くるみ	生活介護事業所 就労継続支援B型事業所	車両購入
	社会福祉法人 青山里会	あおぞら	グループホーム	低床ベッドの購入
	特定非営利活動法人 快生教会	えんむすび	デイサービス	車いす用体重計、足温器、滑車運動器の購入

◇公益事業

(1) 研修会・講演会・講座の開催、支援事業

a. 児童

・交通遺児支援事業

「交通遺児のために役立ててほしい」と個人や企業から寄せられた寄付金をもとに、交通事故で親を亡くした子どもたちのために行う支援事業。夏には恒例の大相撲招待も実施した。後援した「中学を卒業する交通遺児を励ます集い・二十歳を迎える交通遺児を励ます集い」は3月15日に開かれ、交通遺児とその保護者が集い、支援者や関係者などが交通遺児の健やかな成長を願って激励。事業団から図書カードを贈った。



b. 障がい者

地域社会での障がい者福祉の増進、理解および交流を深めることを目的に、肢体・聴覚・視覚・精神・知的などの障がい者団体が主催する講演会、シンポジウム、研修事業などに対して中日新聞紙面で紹介するなどの支援や助成金などを贈呈した。

c. その他

・福祉の星フォーラム(12月14日)

地域共生社会に向けて、共に生きる社会を考え、発信していく目的で開催。「働き方改革！業界に新しい風を巻き起こす～マッチョ×ICT×福祉とは？～」と題し、ビジョナリー人事部長森野将成さん、地域密着型複合施設なごみの郷施設長太田和敬さんが対談するなどし、交流会も行った。



共催：中日新聞社、愛知県社会福祉協議会、NHK 名古屋放送局、NHK厚生文化事業団

(2)社会福祉向上を目的とする事業の実施、支援事業

a.障がい者

- ・あいちアール・ブリュット展(9月11日～3月15日)

愛知県内の障がい者の芸術・文化活動を通じて、障がい者の社会参加や、地域住民の障がいに対する理解を深め、障がいの有無をこえた交流が広がることを目指し、障がいのある人からの公募作品や過去の入選作品、企業のノベルティに採用された障がい者の作品等を展示。また芸術系大学の教員が障がい者施設を訪問する、アート出前講座などを行った。

b.その他

- ・年末助け合い運動(11月25日～12月26日)

年末の1ヶ月をキャンペーン期間とし、406件、約2,760万円が寄せられた。愛知、岐阜、三重各県の生活保護家庭の小中学生にお年玉を贈るほか、福祉事業に助成した。

- ・公益事業に対する支援

▽生活保護家庭の小中学生に「お年玉」を贈呈

12月下旬に愛知、岐阜、三重の各県と名古屋市に在住する生活保護家庭の小・中学生合わせて4,052人に、各県市の福祉事務所を通じて「お年玉」(小学生2,000円、中学生3,000円)を贈呈した。

	小学生		中学生		合 計	
	人数	金額	人数	金額	人数	金額
愛 知 県	878	1,756,000	491	1,473,000	1,369	3,229,000
岐 阜 県	223	446,000	151	453,000	373	899,000
三 重 県	415	830,000	267	801,000	682	1,631,000
名古屋市	990	1,980,500	637	1,911,000	1,627	3,891,000
合 計	2,506	5,012,000	1,546	4,638,000	4,052	9,650,500

▽東海地区特別支援教育振興資金贈呈

心身障がい児や高機能自閉症児、学習障がい児らの教育研究、実践啓発活動を行っている愛知、岐阜、三重、静岡の各県と名古屋市の5つの特別支援教育研究団体に研究助成金として1団体20万円を贈呈した。

▽難病者激励金贈呈

成田山名古屋別院大聖寺(犬山市)と同信徒団体「索(なわ)の会」から寄託された激励金約248万円を、愛知、岐阜、三重県の各難病者団体に贈呈した。

	団体名
愛知	愛知県難病団体連合会
	口蓋口唇口蓋裂を考える会
	東海脊髄小脳変性症友の会
	愛知県筋ジストロフィー協会
	愛知心臓病の会
	全国膠原病友の会愛知県支部
岐阜	岐阜県難病団体連絡協議会
	岐阜県心臓病児者の会
	岐阜県ヘモフィリア友の会
	岐阜県希少難病友の会
	日本てんかん協会岐阜県支部
三重	三重難病連
	先天性代謝異常症
	三重心臓を守る会
	三重もやの会
	SCD・MSA三重の会

(3)災害援護に関する事業

当年度はなし。

(4)保健医療相談支援事業

当年度はなし。

北陸支部

本部や中日新聞北陸本社、富山主幹支局と緊密な連携をとりながら各県内の関係機関、団体などの協力を得て当年度の事業を推進した。

◇社会福祉事業

(1) 社会福祉事業に関する助成を行う事業

・大井中日就学(職)支援 (3月1日～31日・石川県内児童養護施設)

七尾市の中高生の就学を支援してきた「大井中日奨学福祉財団」の解散に伴い、平成24年3月に引き継いだ残余財産を、趣旨及び継続を考慮した「大井中日就学・就職支援金」として今年度も実施した。

県内にある児童養護施設7施設で暮らす中学校の卒業生に贈呈。今春高校に進学、就職する子どもたち23人に新生活の準備に役立ててもらった。

(2) 児童養護施設等支援事業

・児童養護施設入所児童を北陸中日新聞主催「こうの史代展」に招待

年1回、北陸中日新聞主催事業に石川県内の児童養護施設に入所している子ども達を招待。今年度は石川県内の7施設に招待案内を出したところ、7施設から申し込みがあり、計90名を招待した。

・乳児院に図書カード贈呈 (7月1日～31日・石川県内)

石川県内の乳児院2施設、富山県内の乳児院1施設に、1施設あたり20,000円の図書カードを贈呈した。

(3) 助成を希望する障がい者関連施設に対する支援

・年末助け合い運動 (11月25日～12月26日・石川県内)

中日新聞北陸本社と連携をとり、広く募金活動を展開。

12件、1,470,484円の募金が集まり、石川・富山県内の障がい者就労施設7施設へ届けた。

(4) 社会福祉、保健医療の向上を目的とする事業の実施及び支援

a. 障がい者

・「金沢手をつなぐ親の会水泳大会」を支援

障がいのある子どもたちの保護者らで運営している金沢手をつなぐ親の会が開催している大会。日常の体育訓練を通して、知的障がい児の身体的、心理的発達、社会的適合の促進向上を目指した水泳大会の参加者に、参加記念品の購入費用を助成した。

- (5) 災害援護に関する事業
当年度はなし。

東海支部

中日新聞東海本社と緊密な連携を取り、恒例の主催事業や児童養護施設からの要望を踏まえた支援を行うなど社会福祉事業にも力を入れ、静岡県下での当年度の事業を実施した。

◇社会福祉事業

(1) 児童養護施設等支援事業

- ・児童養護施設すみれ寮入所者の誕生日プレゼント補助金贈呈

(4月～3月)

児童養護施設すみれ寮の施設予算だけでは誕生日に入所児童らの希望するプレゼントを購入できないことから、小学生以下(6名)に各2,000円、中学生以上(8名)に各4,000円の補助金を贈呈した。

- ・「静岡県児童福祉施設夏季スポーツ交流会」に対し参加賞購入費の一部を助成(8月21日)

施設間交流と多種スポーツ体験を通じて心豊かな児童となることを目的として開催されるもので、参加賞として配られる菓子の購入費用として20,000円の助成を行った。

- ・静岡県西部地区児童養護施設出身の大学生らへ年末生活支援一時金を贈呈(12月19日)

生活が困窮しがちと言われる児童養護施設出身の大学生らに対し、静岡県西部地区児童養護施設3カ所を通じて、該当する8名に年末生活支援一時金各30,000円を贈呈した。

- ・静岡県西部地区児童福祉施設入所の小学校新入学児童へランドセル贈呈

(3月6日)

静岡県西部地区児童養護施設入所の令和8年度小学校新入学児童5名にランドセルを贈呈した。

児童養護施設わこうで行われた贈呈式では、早速ランドセルを背負って嬉しそうな笑顔を見せていた。



贈呈ランドセルを背負った新入学児童
＝児童養護施設わこうで

・ 静岡県西部地区児童福祉施設入所者の中学校卒業生へお祝い金贈呈

(3月24日)

静岡県西部地区児童養護施設3カ所に入所している令和7年度中学校卒業生徒12名に、激励の意を込めて各30,000円のお祝い金を贈った。代表して児童養護施設まきばの家に入所している生徒が受け取り、高校生活への抱負などを語った。

(2) その他

招待事業

・ 浜松市内の児童養護施設入所者をウェスタンリーグ公式戦「中日VSくふうハヤテ」に招待 (8月23日・浜松球場)

浜松市内の児童養護施設2カ所の入所のうち、希望する10人にチケットを贈った。引率者と共に球場を訪れ、野球観戦を楽しんだ。

◇公益事業

(1) 研修会・講演会・講座の開催、支援事業

・ 第47回静岡県ボランティア研究集会(2月22日)

静岡県内でボランティア活動に関わる人が集い、情報交換や話し合いを通じた学習・ネットワークづくり強化を目的とした集会。会を後援し、運営援助金50,000円を贈った。

主催：特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会、公益財団法人静岡県労働者福祉基金協会

(2) 社会福祉向上を目的とする事業の実施、支援事業

a. 障がい者

・ 東海地区第26回盲学校フロアバレーボール大会(5月31日)

愛知・静岡・岐阜・三重各県の盲学校・視覚特別支援学校の生徒によるフロアバレーボール大会。技術や体力向上をめざし、また生徒同士の交流と親睦を図る目的で開催。大会を後援し、参加賞のタオルを贈った。

主催：東海地区盲学校体育連盟

・ 第38回静岡オレンジマラソン大会(11月29日)

静岡県内の知的障害者が日ごろの体育活動の成果を発揮することなどを目的に開催。大会を後援し、1,500mの部入賞者に対してメダルを贈呈。

主催：静岡県知的障害者福祉協会、静岡県手をつなぐ育成会、(特非)静岡県作業所連合会・わ

b. その他

・ 第 42 回中日ボランティア賞
(贈呈式＝10 月 16 日)

静岡県内で積極的なボランティア活動に取り組む団体を顕彰する主催事業。

静岡県、同県社会福祉協議会、同県ボランティア協会、浜松市が後援し、浜松市を除く後援 3 団体より 23 件の推薦を受けた。

受賞 6 団体（静岡県西部 4 団体、中部 2 団体）を選考委員会で決定。贈呈式で賞状と奨励金（一団体 150,000 円）を贈った。



第 42 回中日ボランティア賞受賞団体代表者ら＝
浜松市で

・ 浜松市内ひとり親世帯の小・中・高生を対象に学業奨励(新聞購読)事業
(8 月 1 日～31 日)

浜松市在住のひとり親世帯の小・中・高校生に対し、長期休暇中の時間を有効に使って新聞に親しみ、時事問題への興味や読解力向上に役立ててもらうことを目的に、こどもウイークリーや中日新聞朝刊を届けた（こどもウイークリー 3 部、中日新聞朝刊 8 部）。また希望者には中日春秋書き写しノートも贈った（7 冊）。終了後のアンケートでは「今まで新聞にふれた事がない子が、興味のある記事を読んでいる姿を見られたのが嬉しかった」などと書かれ、好評だったことがうかがえた。

・ 第 44 回ふるさと知名人チャリティー色紙展（11 月 22 日、23 日）

静岡県にゆかりのある知名人（画家・書道家・版画家・漫画家など）から、色紙作品の寄贈を受け、展示。来場者が一枚 4,000 円で購入（一部入札あり）、その収益金を寄付金とする主催事業。

中日新聞東海本社と連携をとり、浜松市の遠鉄百貨店の協力を得て開催。経費を除いた収益金のうち 596,969 円を年末助け合い運動資金に加え、398,000 円を静岡県社会福祉協議会に贈った。

・ 年末助け合い運動（11 月 25 日～12 月 26 日）

中日新聞東海本社と連携をとり、広く募金活動を展開した。寄付金は

38 件、総額で 2,486,832 円となった。

・ **静岡県西部地区生活保護家庭の中学生に図書カード贈呈（12 月 12 日）**

静岡県西部地区在住で生活保護家庭の中学生 154 名（浜松市 112 名、湖西市 4 名、磐田市 3 名、袋井市 24 名、掛川市 8 名、御前崎市 2 名、森町 1 名）に、激励の意を込め各 5,000 円分の図書カードを贈った。

・ **静岡県西部地区生活保護家庭の小学校新入学児童に図書カード贈呈**

（2 月 19 日）

静岡県西部地区在住で生活保護家庭の新年度小学校へ入学する児童 35 名（浜松市 26 名、湖西市 1 名、磐田市 2 名、袋井市 3 名、掛川市 1 名、菊川市 2 名）に各 3,000 円分の図書カードを贈った。

・ **社会福祉事業資金造成 第 42 回中日杯争奪チャリティーゴルフ大会**

（3 月 18 日）

社会福祉事業資金造成を目的として豊岡国際カントリークラブで開催し、上位入賞者にトロフィーを贈呈。チャリティー基金として参加費の一部の 100,000 円を社会福祉事業資金として計上した。

・ **第 42, 43 回スズキビジネスチャリティーゴルフ大会**

（7 月 16 日、12 月 10 日）

地元企業が主催するチャリティーゴルフ大会。浜松市のペルー人学校を支援する目的で寄付を募る目的で開催しており、本大会を後援した。

主催：株式会社スズキビジネスチャリティーゴルフ大会実行委員会

・ **静岡県ボランティア協会年次レポート発行への助成（5 月）**

昭和 52 年に民間のボランティア活動推進機関として設立された静岡県ボランティア協会は毎年年次レポートを発行しており、今年も助成金として 50,000 円を贈った。

主催：特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会

・ **#あなたを忘れない 白いカーネーションプロジェクト（8 月 13 日）**

障害者の息子を職場のパワハラで亡くした両親が障害者への理解を深めるために開催したイベント。中日新聞東海本社とともに名義後援。

主催：F I Tデザイン研究所

東京支部

本部や中日新聞東京本社(東京新聞)と緊密な連携を取り、東京都を中心とした関東の各都県で、社会福祉事業を実施した。

◇社会福祉事業

・寄付の受付、「年末助け合い運動」募金の実施

東京新聞の協力を得て、寄付の受付(通年)や「年末助け合い運動」募金(11月25日から12月26日まで)を行った。寄せられた善意は、計69件、2,068,122円になった。

・社会福祉施設への助成

各都県の社会福祉施設(15施設)にて使用する物品の購入費用に対して助成した。助成事業実施に際しては、東京善意銀行(東京都社会福祉協議会)、神奈川、埼玉各県の県社会福祉協議会、千葉県児童福祉施設協議会の協力を得た。

No.	施設名	所在地	種別	助成対象事業・購入備品
1	日本点字図書館	東京都新宿区		自立支援事業用什器の入替え事業
2	ひあしんす城北	東京都板橋区	就労継続支援	テーブル
3	金木星の郷	東京都あきる野市	施設入所	ソファ
4	カントリービラ青梅	東京都青梅市	特別養護老人ホーム	フレックスボード(移乗用ボード)
5	パン工房ノアノア	東京都小金井市	就労継続支援	タブレット
6	桜の里	東京都八王子市	特別養護老人ホーム	電動ベッド
7	(神奈川県内施設)	—	母子生活支援施設	貸出用寝具(緊急一時保護居室用)
8	しらかばベビーホーム	神奈川県横須賀市	乳児院	非常用発電機
9	幸保愛児園	神奈川県三浦郡葉山町	児童養護施設	防災テント、カプセルテント、防災トイレ
10	(千葉県内施設)	—	児童養護施設	全自動洗濯機
11	滝郷学園	千葉県旭市	児童養護施設	コードレス掃除機(5台)
12	若竹ホーム	埼玉県上尾市	児童養護施設	ドラム式洗濯機
13	桑梓	埼玉県本庄市	児童養護施設	冷蔵庫

14	神愛ホーム	埼玉県入間郡毛呂山町	児童養護施設	プロジェクター
15	こどもの心のケアハウス嵐山学園	埼玉県比企郡嵐山町	児童心理治療施設	さすまた U 型(3 セット)

岐阜支部

本部や中日新聞岐阜支社と緊密に連携をとりながら、恒例の事業や団体などからの要望に応え支援を行い、地域に密着した事業を実施した。

◇社会福祉事業

児童養護施設等支援事業

- ・第8回中日ロボラぎふ就学(職)支援金贈呈式(2月5日)



県内の児童養護施設に入所している高校3年生31人に対し、大学や専門学校への進学及び就職など新生活に向けての準備を支援するため、それぞれ3万円を支給した。贈呈式では、岐阜県児童福祉協議会の横川会長が代表して目録を受け取った。

- ・岐阜県内2か所の乳児院に入所している乳児たちの情操教育や感性を育むために、1施設3万円の図書カードを贈った。(2月5日)

◇公益事業

(1) 保健医療相談支援事業

中日新聞岐阜県版の「社会事業団岐阜支部だより」(毎週掲載)で告知し、募集の支援を行った。

<主な相談内容>

- ・「薬物依存症医療電話相談」(毎月第2水曜日)を後援
薬物依存症自立支援団体「岐阜ダルク」と協力して、同症からの自立支援を目的に、薬物やアルコール依存症の患者及び家族に対して電話相談を行った。
(年間10回)
- ・「心の病電話相談」(毎週火、木、金曜日)を後援
精神疾患に伴う悩みを抱えている人に向けて電話相談窓口を岐阜県精神保健福祉会連合会が開設し、精神疾患の人やその家族への支援を行った。
(年間144回実施)

- ・「認知症介護者のつどい」を後援
認知症の人と家族の会岐阜県支部が主催し、認知症の介護経験を持つ相談員による介護相談を毎月県内各地で行った。

(2) 研修会・講演会・講座の開催支援

a. 研修会

- ・岐阜県精神保健福祉会連合会が精神障がい者の家族が抱える悩み、不安や病気、症状などの理解を深めるための「家族学習会」を後援。

b. 講演会・講座

- ・岐阜県腎臓病協議会「脊柱管狭窄症の治療について市民公開講座」(5月18日)、「慢性腎臓病対策講演会市民公開講座」(9月28日)、「ips細胞による腎臓再生医療の現状と将来」(11月16日)を後援
- ・ぎふ犯罪被害者支援センター「犯罪被害者支援講演会」を後援(9月7日)
- ・岐阜県網膜色素変性症協会「医療講演会」を後援(10月12日)
- ・ぎふ難聴者協会「聞こえのサポートフェア」を後援(11月23日)
- ・ぎふ要約筆記かがり火「講演と事例検討・交流会」を後援(3月8日)

(3) 社会福祉向上目的とする事業の実施、支援事業

a. 障がい者スポーツ支援事業

- ・文部科学大臣杯争奪日本車いすツインバスケットボール選手権大会(6月14～15日)
- ・岐阜県特別支援学校体育連盟 チャレンジ陸上競技大会(11月1日)、駅伝競走大会(12月13日)を後援
- ・C Pサッカー(脳性まひ等による7人制サッカー)全日本選手権大会を後援(10月4日～5日)
- ・全国身体障害者グラウンドゴルフ大会を後援(11月23日)
- ・東海地区盲学校ゴールボール大会を後援(12月6日)

b. 障がい者支援事業

- ・中部学院全国手話スピーチコンテストを共催(11月9日)



小学生から社会人までの参加者が「手話スピーチ部門」「手話パフォーマンス部門」で手話表現を競った。また、会場で観衆が選ぶ会場特別賞を贈呈した。

手話や聴覚障がいについての講演で東京で開催されたデフリンピックの応援を行った。

- ・ふれあいアートステーション・ぎふ作品展を後援



(8月5日～18日、10月7日～20日、1月14日～26日の3回)

岐阜県身体障害者福祉協会が主催する「ふれあいアートステーション・ぎふ作品展」に参加した障がい者の作品から43作品を3回に分けて展示、その活動と作品を紹介した。

- ・岐阜ろう劇団いぶき「身体表現ワークショップ」(6月28日～8月10日)、「岐阜市民芸術祭演劇の部公演」(12月13日～14日)を後援
- ・岐阜県視覚障害者福祉協会文化祭を後援(9月28日)
- ・日本ファミリーホーム協議会「東海北陸静岡ブロック研修会」を後援(11月23～24日)

c. その他

- ・笠松刑務所篤志面接委員協議会「笠松刑務所花苗寄贈事業」を後援
- ・岐阜少年友の会「芋堀り、日本児童育成園訪問」を後援(10月6日)
- ・年末助け合い運動(11月25日～12月26日)

岐阜県内の福祉施設や福祉団体の支援のため、中日新聞岐阜支社と各支局、通信局・部などの協力を得て、中日新聞紙面に寄託者を紹介し、年末助け合い運動を展開。寄付金は59件、総額で1,954,355円となった。

(4) 災害援護に関する事業

当年度はなし。

中日青葉学園

(1)児童の権利擁護に基づく養育方針

児童の権利に関する条約第3条「児童に関するすべての措置をとるに当たっては、児童の最善の利益が主として考慮されるものとする。」や児童福祉法の新しい理念である子どもの権利保障に基づき、下記項目を実践した。

◆ 要望等対応(苦情解決の取り組み)

苦情等意見箱には、12件の意見が寄せられた。意見については、月1回行われる児童の全体会で説明し、記名されている児童については、個別で対応した。また、新規入所児童には「権利ノート」と子どもの人権 SOS ミニレターを配布し、施設での権利侵害について、いつでも相談できることを担当職員から説明した。保護者からの意見については、子どもの意向や支援方針のすり合わせを行い、児童の福祉が保障されるように話し合った。

◆ リスクマネジメント(ヒヤリハットと事故報告)

ヒヤリハット事案は46件。その都度、合同研修で注意を喚起した。

事故報告は32件(服薬ミス、職員の骨折、車両破損など)。事故原因の究明と対策をするとともに、児童や職員への指導も同時に行った。

(2)地域連携

◆ 食糧支援

「地域に貢献できる施設となる」という方針のもと、日進市社会福祉協議会と連携してサテライト「三つ葉」の管理棟でフードドライブ(食材を集めること)とフードパントリー(食材を配ること)を実施。フードドライブは、日進市農業委員会から野菜の提供や、セカンドハーベスト名古屋や近隣住民から食料品の寄託を受けるなど、数多くの協力を得た。また、農林水産庁に申請して、政府の備蓄米600kg を受け取った。フードパントリーでは、公式 LINE を活用し食材の支援が必要な家庭に、毎月最終火曜日に配分した。

◆ 里親支援

里親世帯と里親を目指す家庭に対し、毎月最終水曜日に「三つ葉カフェ」と銘打って茶話会を開催。日ごろの苦労や喜びについて語り合い、互いの労をねぎらったり、里親登録までの不安を話し合い、助言を受ける場となった。

◆ 子育て相談、ボランティアの受け入れなど

学園の福祉、保育、心理の専門職を活用して、無料電話や対面の子育て相談、社会的養護相談に応じた。6月にボランティア活動日を設け、清掃や卓球、ソフトボールなど、地域の学生を中心に31人のボランティアと入所児童、職員が交流した。夏休みには、子どもと関わる高校生ボランティアをのべ209人受け入れた。毎月受け入れているボランティアは、理美容・洗濯手伝い・環境整備ボランティアで、延べ372人活動していただいた。

◆ 青葉まつり

例年同様10月最終土曜日の25日に開催。地域住民、入所児童の同級生らを招き、児童、ボランティアによる模擬店やイベントなどでにぎわった。日進市長と中日ドラゴンズの藤嶋選手会長と上林選手をゲストに迎え、地域住民約400人とボランティア約180人が参加した。藤嶋選手と上林選手は、トークショーと写真撮影会を行い、子どもも大人も楽しむことができた。

(3)その他

◆ 健康

入院、児童相談所、保護者報告に至る疾病傷病等はなかった。5類に変更となった新型コロナウイルスや、インフルエンザには複数の児童、職員が感染したが、重篤な後遺症などはなく、全員が早期に回復している。

◆ アフターケア

アフターケアについては、25人の卒園生に対し、就労支援、生活支援、生活保護の申請補助、子育て相談等を行った。「中日青葉学園進学支援金」は、継続2人、新規2人の応募があり、応募者全員が奨学金を受け取った。リフォームで新たに設けた個室を卒園者に提供する社会的養護自立支援事業の取り組みを前年に引き続き検討したが、当年度は実施しなかった。

◆ 愛知県指導監査・福祉サービス第三者評価

愛知県健康福祉部による指導監査が12月24日に実施されたが、文書による指摘事項はなかった。

福祉サービス第三者評価をあおば館、わかば館が受審。両館ともに地域支援などについて高い評価をうけたが、キャリアパス制度の未整備や苦情解決に関する公表もれ等について指摘があった。支援や運営がより良いものとなるよう、再確認し改善をはかる。

◆ 実習生の受け入れ

あおば館20人、わかば館18人の保育士を受け入れた。社会福祉実習ではあおば館10人、わかば館10人、心理実習ではあおば館8人、わかば館56人、介護体験ではあおば館12人、わかば館10人、看護実習では108人、里親実習では13家庭を受け入れた。

◆ 職員表彰

勤続表彰は30年1人、15年2人、10年3人、5年3人。当年度の職員表彰は、あおば館では職員休職に伴い1人でホームを切り盛りし貢献した1人と、わかば館ではあおば館から移動して両ホームの職員と児童をてきぱきと導いた1人を表彰した。あと、料理を工夫し、いろいろなメニューに挑戦し続けた調理員全員を表彰した。

◆ 関係機関との協働

日進市、豊明市の要保護対策協議会の委員、名古屋市キャリア支援アドバイザー、社会福祉士、保育士、心理系学部など各関連機関・団体の委員や講師として参加。地域の子育て支援、地域福祉の向上、後進育成の一翼を担った。

中日青葉学園人員構成表

▽職員構成・職員数

令和8年3月1日現在

職 員	人 員	担 当 職 務
学園長	1	運営管理(法人理事・自立支援担当 兼務)
児童養護施設 あおば館		
館長	1	運営管理
指導課長	2	生活指導 (本園、分園、地域支援)
指導係長	1	生活指導
事務員	1	経理事務 (わかば館兼務)
主任指導員 保育士	2	生活指導
指導員 保育士	23	生活指導
主任心理士	1	心理治療、生活指導
調理員	3	給食実務
嘱託医	1	嘱託医務
非常勤	3	生活指導 (生活補助、里親支援)
小計	38	
児童心理治療施設 わかば館		
館長	1	運営管理
精神科医・小児科医	(3)	医療業務 (非常勤)
指導課長	1	生活指導 (支援統括)
心理課長	1	心理治療、生活指導
心理係長	1	心理治療、生活指導
主任指導員 保育士	2	生活指導
指導員 保育士	10	生活指導、地域支援
心理士	5	心理治療、生活指導
看護師	1	看護実務
栄養士	1	栄養管理
調理員	4	給食実務
非常勤	1	生活指導 (生活補助)
小計	28 + (3)	
フォスタリングセンター		
指導療育部長	1	運営管理(里親リクルーター 兼務)
小計	1	
合計	65 + (3)	

▽児童数

令和7年3月1日現在

施 設		幼児	小学生	中学生	高校生	その他	計
あおば館	男 子	0	10	3	4	0	17
	女 子	0	3	7	7	0	17
わかば館	男 子		8	3	0	0	11
	女 子		7	4	1	0	12
計		0	28	17	12	0	57

児童養護施設あおば館

① 組織運営

【組織】

当年度は、生活支援課と地域支援課の二課体制のもと、本園・分園の特性を活かして運営を進めた。職員配置は各ホームのケアニーズに応じて調整したが、退職者3人と1か月以上の長期療養者6人が発生し、十分なマンパワー確保には至らず、ケアワークの負担は年間を通じて偏りが生じた。

児童の動きは、家庭復帰4人、自立3人、措置変更0人、措置延長1人であった。アフターケアとして2人が学園での生活を継続した。就学・進学は小学校2人、中学校2人、高校3人で、高校退学者が1人いた。児童の状況や進路に応じた支援を行い、生活と学習の安定を図った。

常態措置定員は前年同様35人(本園24人、分園11人)で運営した。

・児童入所状況(令和7年4月1日現在)

けやき	しらかば	ひのき	もみじ	ポプラ	さくら	合計
5人	6人	5人	5人	5人	6人	32人

※男子ホーム：けやき、ひのき、ポプラ 女子ホーム：しらかば、もみじ、さくら

・児童の入所実績

	けやき	しらかば	ひのき	もみじ	ポプラ	さくら
入 所	2人	1人	1人	1人	0人	0人
退 所	0人	3人	2人	1人	0人	1人

延べ入所者数は11,795日人数

一時保護児童数：男子5人・女子7人で延べ95日人数

【会議】

運営方針、ホーム運営、児童のケアに関する内容で以下の通り会議を実施した。あおば館会議は5回。ビジョンの確認、あおば館の運営コンセプトである「あおばコミュニティ」、「ホーム自治」について理解を深めるための場とした。役職者会議は3回で、あおば館職員配置の見直しを行った。ホーム長会議は12回で、ケアワークや運営における現場の意見や情報集約の場とした。地域支援会議は12回実施。ホーム会議は20回実施。ケース会議(ケースカンファレンス)は3回実施した。自立、家庭復帰を控える児童についての会議は必要に応じ5回実施した。

児童も参加するホーム会については、各ホームでばらつきがあるが、各月1回ほど実施した。

【職員育成】

本年度は、あおば館の全ケアワーカーを対象に、チーム支援の基盤となる育成研修を重点的に実施した。研修内容は、ケアプランの作成、措置費の理解と適切な運用、子どものアドボケイト(権利擁護)の視点、職員がチームとして機能するための協働体制、被措置児童虐待防止、福祉サービスと子どもの最善の利益、社会的養護の現状理解、職員情報の取り扱いなど、多岐にわたった。これらの研修を通じて、ケアワーカー一人ひとりが支援の質を高め、組織としての共通理解を深めることを目指した。「性の問題を考える会」には、年間3回の研修に延べ5人のケアワーカーが参加し、子どもたちの「性」に関する課題への理解を深める機会となった。職員の個別相談の機会となるよう施設長アワーと称した相談、研修は5回行い、来訪職員は延べ 10 人であった。

② 養育

ホーム運営では、「ホーム自治」を基盤に、「あおば館コミュニティ」による「自助・互助・共助・公助」の仕組みを継続した。本園はケアニーズの高い児童や家庭復帰を目指す児童を配置し、分園は家庭復帰が難しい児童を受け入れ、子どもが「帰属意識を持てる実家のような場所」となるよう配慮した。人権擁護を重視し、より家庭的かつ専門的な養育を行った。経済観念を養うための生活費(仮払金)支給の仕組みを導入し、家庭生活を資金の面からイメージできるように努めた。職員配置については、本園では各ホームに概ね3人、分園では各ホームに4から5人を配置し、役職職員はホーム勤務の補助に入りながらスーパービジョンを行った。また、学校教育に関しては、地域の小中高校や敷地内の分校と連携し、より専門的で質の高い教育支援を提供した。

③ 自立支援・家庭復帰支援の方法

ケアプランの作成を充実させ、自立支援と家庭復帰支援に取り組んだ。ケアプランは子どもの声を主軸に、養育支援プランと家庭復帰プランを立案し、家庭復帰や自立の姿を具体的に描きながら、児童の強みを伸ばす支援を重視した。自立以外を想像しにくい児童にも家庭復帰の選択肢を示し、実親の状況や措置理由を丁寧に伝え、生活課題をフィードバックした。

支援は社会福祉援助技術に基づき、家庭復帰・自立を見据えた戦略的な計画とし、個に応じたルールづくりや課題設定を丁寧に行った。モニタリングと評価では、児童

の状況変化に応じて支援を再設定し、時宜に応じたオーダーメイドの内容を見童と共有。ホーム職員間で共通理解を図り、評価情報を見童に伝え、次年度の目標設定につなげた。

自立支援では、アルバイト支援、アフターケア情報提供、一人暮らし体験などを計画的に実施し、交流会や宿泊型自立支援イベントへの参加も促した。家庭復帰支援はホーム長が中心となり、家庭支援専門相談員がケース全体をマネジメント。児童相談所と協働し地域資源の調整を進め、親子面談や外出・帰省を重ね、双方の心境に配慮した支援を行った。

④ その他

(1) 心理対応

心理療法担当職員が、個別心理療法、生活場面でのアセスメントや面談を行った。また、愛知学院大学など地域の大学と連携協定を結び、支援の幅を拡大した。心理対応としては、セラピーを実施した児童は5人であった。生活場面面接(ホーム生活における心理対応)6人、等含め11ケースの児童心理的な関わりを実施した。

(2) 個別対応と家庭支援

個別対応職員は、ケアニーズの高い特別な支援が必要な児童に寄り添った支援を実施。うち課題を抱えた2人には、登校支援、生活改善支援、非行行為改善支援を行った。ホームと外部機関と連携を取りケアを行った。

家庭支援専門相談員は、全児童のケースワークの調整を行い、家族再統合に向け児童相談センター、地域行政等と協働した。児童の意見を保護者に伝え、親子関係調整のため家庭訪問を実施した。当年度4人の児童が家庭復帰をした。

(3) 退所者支援

法人本部の「中日青葉学園進学支援金事業」を活用し、退所予定児童2人と大学・短大へ進学した退所児童2人が支援金を取得した。退園生への支援は生活相談、通院同行、行政手続きや住居探し、再就職支援など多岐にわたった。措置延長解除児童1名は一人暮らしへの不安が強く、施設生活を継続した後、3月末に独り暮らしを開始した。また、措置解除児童1人が退所後2年で生活困難に陥り、行政と連携して生活保護・障害者支援の手続きを行い、学園内で生活を支えながら対応した。

(4) 里親支援専門相談員、家庭体験

平成30年から配置している里親支援専門相談員は、従来の里親訪問だけではなく、ケアワーク職務も担い、里親の周知、相談も行った。里親家庭に延べ134回訪問した。養育相談をはじめ、レスパイトの調整も行い、里親に寄り添った支援を行った。

里親移行を考える児童のマッチングについては1件実施したが、不調に終わった。

(5)地域連携と協働

三つ葉を拠点に、PTA・自治会・子ども会・地域住民との連携を強化し、児童が地域の中で生活している実感を持てるよう支援した。学校や地域住民とのイベントや清掃活動にも継続的に参加した。また、周辺大学の多さを生かし、専門機関と連携した心理治療・相談の充実を図った。さらに、青葉まつりを通じて地域団体とのつながりを深め、児童がその意義を実感する機会となった。加えて、ショートステイ契約自治体が1か所増え、フードパントリーや施設開放も積極的に実施し、多くの団体に活用された。

(6)アドボケイト(児童の権利擁護)

措置児童の権利を守るため、ミニレター、意見箱、一般社団法人子どもアドボカシーセンターNAGOYAに各月のアドボケイト(子どもの意見聴取のための来訪)を依頼した。ミニレターは2件の案件があり愛知県福祉局児童家庭課子どもの権利擁護調査員の依頼を受け対応をした。施設長の意見箱には合計31の意見が寄せられ児童対応をした。アドボケイト活動は5回。各回2名ほどの児童が参加した。

(7)福祉事業ポイント

愛知県民間社会福祉施設運営費補助制度の福祉事業ポイント加算では

- ▷社会福祉実習の受入
- ▷教員養成介護等体験
- ▷福祉人材育成の取組
- ▷福祉避難所
- ▷被虐待児の受入
- ▷家庭復帰退所児童支援事業
- ▷家庭的養護の推進

の7項目で6.0ポイントを取得した。

児童心理治療施設わかば館

① 組織運営

【組織】

わかば館は、男女2ホームで定員35人(暫定定員32人)の大舎制で運営。4月1日の在籍児童は、小学生から高校生まで計25人。職員は非常勤を含め27人の体制で子ども達の支援にあたった。「ソーシャルワークに基づいた支援」「よい環境・よい関わり・よい体験」をスローガンに掲げて臨んだ。入所児童への支援の質の向上のため、福祉、心理、教育(青葉分校)が連携し取り組んだ。日々の関わり以外にも部活動や行事を活用し、子どもの心身の成長を促した。

・児童入所状況(令和7年4月1日現在)

もえぎ・男子	あさぎ・女子	合 計
12 人 (定員17人)	12 人 (定員18人)	24人(定員35人)

・子どもの入退所実績

	男子	女子	計
入所	5 人	10人	15人
退所	8人	8人	16人

延べ入所者数は 7,094 日人数

一時保護児童数:男子3人・女子2人で、

延べ232日人数日

【会議】

以下のとおり児童支援ならびに運営について会議を実施した。

- (1)わかば館会議:月1回実施 (2)現場会議:月1回実施 (3)心理会議:月1回実施
(4)ケース会議:随時実施(35 回)

【職員育成】

中日青葉学園として実施する合同研修以外に、わかば館では、自ら学ぶ姿勢を身に付けられるよう、若手職員による研究発表会を月1回実施。併せて看護師による性教育や向精神薬の取り扱いについての研修会を行った。心理士が児童心理治療施設でより専門性が発揮できるよう、元児童心理治療施設協議会長で臨床心理士の細江逸雄氏によるスーパーバイズ(熟練者の指導・助言)を隔週1回。また職員の専門性向上を目指し、外部研修 27 件に延べ 52 人が参加した。

令和6年度に数多くの職員がメンタル不調を起こしたことをうけ、当年度は勤務後

などにベテラン職員による若手職員への肯定的な声掛けを毎日5分程度行うなどの取り組みをおこなった。また休憩を取らない職員が多くいたことから、全職員に休憩時間を必ず確保するよう義務づけるなど職場の心理的・身体的安全性を確保するよう取り組みを続けている。

② 療育

入所児童全員のケアプランを作成し、個々の児童の支援についての計画性を担保するため、全てのケースにおいて、ケアプラン作成時に施設長、課長、主任のいずれかによるスーパーバイズを実施。対象児童が持つ強みや長所を生かしたプランの作成を行った。

入所児童の多くが発達障害を抱えている現状を踏まえ、短期目標を見える化し、児童の居室に掲示。毎日、消灯時などに達成度などについて確認を行った。

年度当初に掲げた基本方針である（1）ソーシャルワークの視点に基づいた児童個々の問題解決への取り組みを行い、入所児童ならびにその家庭のエンパワーメント（力の引き出し）を図る（2）日課に基づいた日常生活支援を行い、基本的な生活習慣の習得を目指す（3）心理療法担当職員による個別のセラピー、カウンセリングを実施する（4）小中学生は敷地内の分校に通い、能力や特性にあわせた教育を保証する（5）園内の行事や部活動をグループワークとして活用。それぞれの子どもの発達、自己肯定感の向上、自己実現や自立支援など、健やかな成長につなげる（6）園外活動を通じ、子どもの社会性が深まる体験活動を企画する（7）児童が周囲に自らの助けを求められるよう、言語能力の向上を目指す（8）家庭復帰や自立後を意識した余暇の過ごし方についての支援を実施する（9）必要に応じて医療機関と連携し、より専門性の高い療育を提供する（10）すべての専門職が権利擁護を意識し、子どもの最善の利益を目指す（11）専門職については、それぞれの役割を明確にし、連携することで質の高い療育を提供する（12）入所児童と定期的に面談、児童の意見を聴取、代弁し権利擁護に努める（13）心理療育課を中心に PCIT（親子相互交流療法）や SST（社会生活技能訓練）、アンガーマネジメント（怒りの感情管理）を導入し、児童、保護者の退所後の生活が、より円滑に行えるよう支援に活かす（14）近隣の心理系、福祉系、教育系の大学に協力をあおぎ、外部の第三者による生活の聞き取りを定期的実施など権利擁護が保障される仕組みを構築する の14点については、取り組みがなされ、児童の成長に寄与できている。

一方、当年度についても男子児童1人が複数の女子児童の身体に触るなどの性問

題が発覚。児童相談センターの協力をうけながら被害児童の聞き取りやメンタルヘルス、加害児童の分離などの対処をした。また、職員に対して、施設など児童の安全を守るための業務について再確認を行い、それらの業務を徹底するよう取り決めを行った。また、男女の生活エリアを分けるためのリフォームを行うための準備を開始。令和8年4月から施工する。

③ 自立支援

児童心理治療施設としての支援を完了した児童10人が、家庭復帰を果たした。それぞれの児童の通う学校や放課後デイサービスなどに情報提供を行い、地域生活の支援ネットワークを構築した。

大学生、社会人、グループホームで地域生活を送る退所児童に対しても、必要に応じ定期連絡や訪問、家族療法室を利用した実家機能、医療機関への受診支援などを実施。学生生活、就労、地域生活が維持され、さらにより良い生活を送れるようよう支援を実施した。また、退職や人間関係の不和などで、生計の維持が困難となった退所者に対して危機介入し、通院の付き添い、生活保護の取得や就労支援、定期面談などを実施し、安定的な生活が送れるよう支援した。

④ その他

(1)性教育

性教育を専門に取り組む看護師を迎え、中学生男女と退所を控えた児童を中心に17回(参加児童はのべ46人)実施した。

生活の中での性教育の在り方を考え、日々の支援に生かした。また、学校との情報交換も行った。

(2)心理対応

不登校や情緒不安定な児童のほか、最近は発達障害児や重篤な虐待を受けて入所する子どもが増え、生活場面で特別な配慮が求められることが多くなっている。心理職が、わかば館1階の治療棟で1回45分程度の個別のセラピーを行った。子どもと心理士の関係性を基盤に日常生活の生きづらさに折り合いがつけられるよう心理士の知見を基にアプローチした。また、児童指導員、保育士と子どもの見立てについて協働し、生活全体が治療的環境になるように整えた。

また、非常勤の精神科医には子どもとの面談、カンファレンスへの出席、生活場面での観察など、多様な側面から子どもとの関わり持ってもらい、子どもの状態の見立てや療育方法についてのスーパーバイズを受けた。加えて、職員との面談を通して職

員のメンタルヘルスについてもアドバイスを受けた。

(3) 家庭支援

子ども1人1人の特性に合った治療・支援が行えるように、子ども1人に対し生活担当、心理担当、家族支援担当の職員を配置し、三者が共同してケアプランを作成。よりきめ細かい支援を行った。また、本人、家族、児相、分校教員、学園担当者等が集い家族会議を実施。本人の現状、課題等について本人を含む参加者全員で共有し、本人、家族ともに課題を設定するなどして家庭復帰後の地域生活が円滑に送れるよう支援を行った。

(4) 児童支援

入所児童の多くが精神科等に定期的に通院しており、医療機関との連携強化に努め、個々のケースに合わせてより専門的な視点で治療が行えるようにしている。

児童相談センターとも連携し、保護者への子育て支援プログラムの実施や、家庭復帰を目指して地元校や各関係機関や支援者との関係者会議等も積極的に行い、家庭復帰や児童養護施設等への措置変更に役立てた。

日々の取り組みでは、男女それぞれのホームで毎日その日を振り返る「もえぎ会議」「ガールズミーティング」を継続して実施。子ども達の意見を言える場を設けている。

(5) 学習

近隣大学の学生による家庭教師、分校 OB 教員の学習支援などを実施。入所児童個々の状況に合わせた学習機会を提供した。また、あおば館の小規模化によって発生した空き部屋を借り、ベテラン保育士と分校教員の OB による放課後デイサービスを模した環境を用意。児童数名が下校後に直接訪れ、家庭復帰後の生活に近い日課となるように工夫した。

(6) 福祉事業ポイント

愛知県民間社会福祉施設運営費補助制度の福祉ポイント加算では

- ▷社会福祉実習の受入
- ▷福祉人材育成の取組
- ▷教員養成介護等体験
- ▷福祉避難所
- ▷一時保護委託の実施
- ▷被虐待児の受入
- ▷治療の推進と家庭復帰の支援
- ▷保護者指導事業

の8項目で7.5 ポイントを取得した。

中日青葉学園 主な行事

開催日		行事名
4月	7日	ラーメン訪問
	8日	北小学校、高校入学式
	9日	日進中学校入学式
	29日	つつじの会
5月	3～6日	ゴールデンウィーク外出・お楽しみ会
6月	16日	日本大相撲協会によるちゃんこ訪問
7月	下旬	わかば館 目的別活動（三重県海水浴）男女別日程
		あおば館 ホーム別目的別活動（福井県、飛騨高山、日間賀島）
8月	19日	施設長会 卓球大会
9月	1,2日	両館合同 自立支援活動（午前：座学 午後：テーブルマナー）
	15日	施設長会 ソフトボール大会
10月	4日	愛知韓国青年商工会による焼肉訪問
	25日	青葉まつり
11月	16日	施設長会 音楽の集い
12月	1日	フレバールケーキ教室
	2日	中部善意銀行サンタ訪問
	13日	フラワーアレンジメント教室
	7,14日	中日森友隊活動（環境整備ボランティア）
	14日	マグロの解体ショー（ご寄託）
	20日	スケート招待
	21日	ハーレーサンタ訪問
	23日	両館合同クリスマス会
	26日	施設長会 フットサル大会
	30日	餅つき
1月	17,18日	施設長会 スキー村
2月	8日	施設長会 親善マラソン（インフルエンザ罹患児童多数のため辞退）
3月	上旬	ホーム別 お別れ外出
	20日	巣立ちの会 送別パーティー
	21日	園内マラソン大会（2/8代替行事）

主な行事の写真



ラーメン訪問
(4月7日)



つつじの会
(4月29日)



ゴールデンウィークお楽しみ会
(5月6日)



ちゃんこ訪問
(6月15日)



ソフトボール大会
(9月15日)



愛知韓国青年商工会 韓国焼肉訪問
(10月4日)



青葉まつり
(10月25日)



フレベールケーキ作り教室
(12月1日)



マグロの解体ショー
(12月14日)



スケート招待
(12月20日)



餅つき大会
(12月30日)



お別れ外出
(3月7日)

子育て短期支援事業

中日青葉学園あおば館では、日進市、東郷町、豊明市、長久手市、あま市と提携し、提携市在住の保護者が疾病等の理由により、一時的に児童の養育が困難になった際に該当児童を養育が再開できるまでの間、保護者の代わりに保護、養育を行う「子育て短期支援事業」を実施している。

当年度の実績は、以下のとおり。

【長久手市】 人数 1 人

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1日	2日	1日	1日	3日	2日	1日	3日	1日	2日	2日	1日

【日進市】 人数 1 人

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
0日	0日	0日	0日	2日	0日	0日	0日	0日	0日	3日	0日

里親フォスタリング事業

令和2年度から里親を増やす啓発活動などを行う「里親制度重点エリア啓発及び里親研修事業」を愛知県から受託し、中日青葉学園内に事務局として「フォスタリングセンター」を設けてさまざまな事業を行っている。重点エリアは年度ごとに代わり、当年度は日進市、長久手市、稲沢市、あま市で啓発活動を実施。市内の店舗や行政機関と連携を図り、普及啓発に努めた。4市町で計15回、休日に養育里親体験発表会と集いの場を開催。里親制度の復旧啓発および、里親をしている方に実体験を披露してもらうと共に、グループに分かれて質疑応答する機会を設けて移行支援につなげ、登録を目指す家庭を増やす活動に取り組んだ。

【啓発事業】

おまつり・マルシェ等	集いの場等	パネル展示など
11回	9回	12回

【SNS等の発信】Instagram、Facebook

投 稿	フォロワー数
204 件	826 人(+290 人)

【養育里親体験発表会】※重複あり

実施回数	参加者
6回	延べ45 人

【集いの場】※重複あり

実施回数	参加者
9 回	延べ187 人

【研修事業】基礎研修、登録前研修、登録前演習、更新研修、支援研修

実施回数	参加者
19 回	延べ116 人

【世帯別の結果】

問い合わせ家庭	登録
20世帯	1世帯

地域における公益的な取り組み

中日青葉学園内にフリーダイヤルを設置し、社会福祉士、保育士、心理士などによる地域住民からの子育て相談を実施。

当年度の利用実績は下表のとおり。

【新規相談件数】 総数5件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	2

【継続相談件数】 0件

【主な相談内容】 ※重複あり

子育て一般	発達相談	不登校	虐待	いじめ	その他
2	1	1	0	0	1

フードパントリー

中日青葉学園では、令和5年11月から地域の子育て世帯を支援していくため、毎月10世帯程度食品の配布を実施した。

当年度の利用実績は下表のとおり。

【利用世帯件数】 延べ世帯数 221件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
14	15	15	13	17	22	20	19	24	20	21	21

事業報告 付属明細

〈事業件数〉

当年度の本部、各支部の事業件数は次の通り。障害者や難病者の自立、社会参加への支援、生活保護家庭や施設入所児童の援助など幅広い社会貢献に取り組んだ

	主 催	共 催	後 援	合計
本 部	4	13	91	108
北陸支部	4	0	1	5
東海支部	12	0	8	20
東京支部	2	0	0	2
岐阜支部	3	1	27	31
合 計	25	14	127	166

〈寄付金〉

当年度の本部、各支部、青葉学園の寄付金受領件数及び金額は次の通り

	本 部		北陸支部		東海支部		東京支部	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
一般寄付	329	44,293,908	30	125,000	11	385,125	14	568,000
年末助け合い	243	20,191,880	12	1,470,484	38	2,486,832	55	1,500,122
指定寄付	18	6,744,750	0	0	0	0	0	0
合 計	590	71,230,538	42	1,595,484	49	2,871,957	69	2,068,122

	岐阜支部		青葉学園		合 計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
一般寄付	48	2,242,071	118	6,435,950	550	54,050,054
年末助け合い	59	1,954,355	0	0	407	27,603,673
指定寄付	0	0	0	0	18	6,744,750
合 計	107	4,196,426	118	6,435,950	975	88,398,477

(金額単位:円)

〈災害義援金〉

当年度はなし。

〈事業一覧〉

当年度の本部、各支部の事業一覧は次の通り

事業一覧（本部）				
開催日	事業	連携	主催者	会場
4/12～6/1	令和7年度愛知県障害者スポーツ大会	後援	愛知県、愛知県社会福祉協議会	名古屋グランドボウルほか
4/13～20	第45回愛知県聴覚障害者体育大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	日進市スポーツセンターほか
4/16～11/20	第22回名古屋市障害者スポーツ大会	後援	名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連 合会、名古屋手をつなぐ育成会、名古屋 市知的障害者福祉施設連絡協議会、名 古屋市精神障害者家族会連合会、名古屋 市特別支援教育研究協議会、名古屋 市社会福祉協議会、名古屋市総合リハビ リテーション事業団	小幡緑地公園ほか
4/23～2/28	名古屋手をつなぐ育成会 青年教室	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成会福祉会 館ほか
4/22～27	ここのあーとはヒトアジ違う～ここあーと～	後援	ここで遊べる場所つくり実行委員会	桜ヶ丘ミュージアム・桜ヶ丘公園
4/24～29	陶工房鳴海 陶展・チャリティーバザー	後援	陶工房鳴海	陶工房鳴海
4/27	第10回チャリティーマラソンin庄内緑地 介 助犬の活動を応援しよう	後援	名古屋栄ライオンズクラブ	庄内緑地公園周回コース
5/10	第74回児童園遊会	共催	名古屋市、名古屋市社会福祉協議会 共催：中日新聞社会事業団	東山動植物園
5/25	全国膠原病友の会愛知県支部 総会・医療 講演会・交流会	後援	全国膠原病友の会 愛知県支部	名古屋市総合社会福祉会館
6/1	第61回名肢体登山大会	後援	名古屋市肢体障害者福祉連合会	ホテル「華菱」
6/6～2/2	令和7年度面接相談事業	後援	愛知県教育・スポーツ振興財団	愛知県教育会館ほか
6/7	公益社団法人日本リウマチ友の会愛知支部 第62回大会	後援	日本リウマチ友の会 愛知支部	ウインクあいち
6/15	第61回重度在宅児・者研修旅行	後援	名古屋手をつなぐ育成会	ラグーナテンボス・ラグナシア
6/22	認知症のひとと家族の会 愛知県支部「45周 年記念講演会」	後援	認知症のひとと家族の会 愛知県支部	ウインクあいち
6/22	令和7年度東海・北陸ブロック里親研究大会 なごや大会	後援	名古屋市里親会こどもピース、東海・北陸 ブロック里親連絡協議会、全国里親会	ポートメッセなごや コンベンショ ンセンター
6/24	生涯のスポーツ ボッチャを一緒に体験し よう	後援	クオーレ 就労支援インクル岡崎	岡崎中央総合公園 総合体育館 武道館
6/25	東海地区特別支援教育振興資金贈呈式	主催	中日新聞社会事業団	中日新聞社
6/28～29	令和7年度療育事業	後援	愛知県手をつなぐ育成会	昼神温泉ほか
6/29	第22回なごや手話フェスティバル	後援	名古屋市聴言障害者協会	名古屋市北文化小劇場
7/1～3/31	名古屋少年友の会更生保護行事	後援	名古屋少年友の会	愛知少年院・瀬戸少年院・立正 園 ほか
7/1～3/31	愛知県精神保健福祉の増進に関するネット ワークづくり実施事業	後援	愛知県精神障害者家族会連合会	県白壁庁舎5階会議室ほか
7/6	第41回愛知県聴覚障害者大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	名古屋文理大学文化フォーラム
7/12	NPO法人子どもセンター「パオ」 19周年記 念イベント	後援	子どもセンター「パオ」	イーブルなごや ホール

事業一覧（本部）				
開催日	事業	連携	主催者	会場
7/13～10/27	世界最大級の大スペクタクル☆木下大サーカス名古屋公演	後援	中日新聞社	白川公園 特設会場
7/19～9/12	令和7年度夏期高校生ボランティア活動・体験文募集	後援	中部善意銀行	愛知県内社会福祉施設
7/20	ウクライナろう者人道支援のためのチャリティー公演会「ろう文化の絆、平和への共鳴」	後援	ウクライナろう者交流プロジェクト2025 愛知	メニコンシアターAoi
7/21～31	第68回福祉施設「海の家」	共催	名古屋市、名古屋市社会的養育施設協議会 共催：中日新聞社会事業団	篠島海水浴場
7/27	第43回昭和区の福祉まつり	後援	昭和区の福祉まつり実行委員会 共催：名古屋市昭和区役所、名古屋市昭和区社会福祉協議会	昭和区役所
8/1～28	第34回AICHI高校生交流会	共催	愛知県児童福祉施設長会、AICHI高校生交流会実行委員会 共催：中日新聞社会事業団、愛知県社会福祉協議会	常滑市文化会館ほか
8/1～12/31	第39回ふれあいフォトコンクール	後援	愛知県社会福祉協議会	愛知県社会福祉会館
8/2	第10回パールオープン交流卓球大会	後援	西尾市卓球協会 主管：西尾パール卓球クラブ	西尾市中央体育館
8/3	アートセラピーを学ぼう。講演会・一日体験	後援	アートセラピー研究会、日本描画テスト・描画療法学会	イーブルなごや
8/8～12	第50回東海区小児糖尿病サマーキャンプ（AMIGOキャンプin四日市）	後援	東海地区小児糖尿病サマーキャンプ研究会	四日市市少年自然の家
8/11～2/8	福祉に関するレクリエーション講習会・研修会・セミナー	共催	愛知県レクリエーション協会 共催：中日新聞社会事業団	愛知県教育会館
8/14	C5忍者ランド&運動あそびフェスタ	後援	アイディアC体創協会	愛・地球博記念公園 地球市民交流センター体験学習室
8/16～17	令和7年度親子グランピング	後援	東海交通遺児を励ます会	奥伊勢フォレストピア・宮川山荘
8/16～18	第7回名古屋コインショー	後援	日本貨幣商協同組合	ウインクあいち
8/18～11/15	青少年の自立支援事業「スマイルサポートプログラム2025」	後援	愛知県教育・スポーツ振興財団	愛知県教育会館ほか
8/19	令和7年度愛知県児童福祉施設入所児童卓球大会	共催	愛知県児童福祉施設長会 共催：中日新聞社会事業団	日進市スポーツセンター
8/22～24	第51回愛知心理療育キャンプ	後援	愛知心理療育親の会	愛知教育大学 特別支援教育棟（宿泊：洲原ロッジ）
8/30～31	2025愛知県車いすテニス大会 in NAGOYA（第71回東海車いすテニス大会）	後援	愛知県、愛知県社会福祉協議会、愛知県車いすテニス協会	諸の木テニス倶楽部
8/31	令和7年度愛盲連文芸大会	後援	愛知県盲人福祉連合会	明生会館
9/2	第73回愛知県社会福祉大会	後援	愛知県、名古屋市、愛知県社会福祉協議会、愛知県共同募金会	IG Arena
9/6～7	第57回愛知県身体障害者作品展	後援	愛知県身体障害者福祉団体連合会、蒲郡市身体障害者福祉協会 共催：蒲郡市	蒲郡市博物館ギャラリー
9/10～12	2025年度全国児童心理治療施設職員研修会	後援	全国児童心理治療施設協議会	名古屋クラウンホテル
9/10～12/10	第73回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県内
9/11～12	南障会一泊研修旅行	後援	南区障害者関係団体連絡会	ホテルアンビア松風閣
9/11～3/15	令和7年度 あいちアール・ブリュット展	後援	愛知県	市民ギャラリー矢田ほか

事業一覧（本部）				
開催日	事業	連携	主催者	会場
9/13	親子なかよしキャンプ デイキャンプ	後援	愛知県自閉症協会・つぼみの会	朝明ロッジ
9/15	令和7年度 愛知県児童福祉施設入所児童ソフトボール大会	共催	愛知県児童福祉施設長会 共催：中日新聞社会事業団	幸田町とばね運動場
9/21	第34回東海障害者バドミントン選手権大会	後援	東海障害者バドミントン連盟 主管：名古屋スマッシュ	名古屋市障害者スポーツセンター
9/21	里親家庭交流会 ぶどう狩り収穫体験	後援	名古屋市里親会こどもピース	常果園
10/10～14	第77回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	後援	愛知県共同募金会、市区町村共同募金委員会、愛知県社会福祉協議会、市区町村社会福祉協議会	NHK名古屋放送センタービル1階プラザウェーブ21
10/4	NPO法人幸せつむぎ主催 第5回特別講演会「障害のある方の就労および所得について-Good Job!Center KASHIBAの取り組み-」	後援	幸せつむぎ	豊明市文化会館
10/12	第51回名視協文化祭	後援	名古屋市視覚障害者協会	名身連福祉センター
10/18	第4回Para国際音楽コンクール	後援	響愛学園、パラ・アーティスト・マネジメント協会	熱田文化小劇場
10/19	第68回 東海車いすツイバスケットボール定期大会 三重鈴鹿大会	後援	東海車いすツイバスケットボール連盟 主管：三重フロンティアズ	AGF鈴鹿体育館 メインアリーナ
10/20～30	難病者激励金贈呈式	主催	中日新聞社会事業団	中日新聞社
10/22～11/22	第81回ボランティアスクール	後援	あさみどりの会	さわらび園、べにしだの家
10/26	第35回名古屋市精神障害者家族交流事業「晴れときどき虹」	後援	名古屋市、名古屋市精神障害者家族会連合会	名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）メインホール
10/26	第22回車いすテニス岩倉大会（ニューミックステニス）※雨天のため中止	後援	岩倉市テニス協会、愛知県車いすテニス協会	岩倉市野寄テニスコート
10/27～11/2	令和7年度第25回作品展「てをつなぐ」	後援	愛知県手をつなぐ育成会	瀧上工業雁宿ホール
10/29～11/3	第17回ふれあいアート展	後援	あいち生活サポート協会	名古屋電気文化会館 東ギャラリー
11/1	第49回2025愛のフェスティバル	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成会 福祉会館・北側駐車場・南側ひろば
11/3	NPO法人愛知県難病団体連合会第52回大会	後援	愛知県難病団体連合会	東別院会館ホール
11/8	若者支援フォーラム2025“働く”を考える 変化する若者多様な学びと“働く”	後援	若者支援ネットワーク研究会in東海 共催：名古屋大学学生支援本部、ユナイテッドユニーク、Man to Man Passo、クオーレ	名古屋大学 東山キャンパス ES総合館 3階 034講義室
11/9	特定非営利活動法人響愛学園15周年記念コンサート	後援	響愛学園	江南市民文化会館
11/9	第70回名古屋市身体障害者福祉大会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会、名古屋市	名古屋市中区役所ホール
11/13	令和7年度岐阜県母子寡婦福祉研修大会	後援	岐阜県母子寡婦福祉連合会	みんなの森ぎふメディアコスモス みんなのホール
11/14	第18回健康づくりウォーキング大会	後援	名古屋市老人クラブ連合会	東山動植物園
11/14	第58回愛知県視覚障害者福祉大会（小牧大会）	後援	愛知県盲人福祉連合会	小牧勤労センター
11/15	第63回愛知県子ども会大会	後援	愛知県、愛知県子ども会連絡協議会、愛知県社会福祉協議会、中日新聞社	岡谷鋼機名古屋公会堂
11/16	第47回音楽の集い「豊橋大会」	共催	愛知県児童福祉施設長会 共催：中日新聞社会事業団、愛知県社会福祉協議会	アイプラザ豊橋

事業一覧（本部）				
開催日	事業	連携	主催者	会場
11/16	あいち高次脳機能障害リハビリテーション講習会	後援	あいち高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会 共催：愛知県、名古屋市、名古屋市総合リハビリテーション事業団、高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」、高次脳機能障害者の会みずほ	名古屋市立大学病院 病棟・中央診療大ホール
11/23	第23回全国身体障害者グラウンド・ゴルフ岐阜大会	後援	岐阜県障害者スポーツ協会	岐阜メモリアルセンター 長良川競技場・補助競技場
11/25～12/26	令和7年度年末助け合い運動	主催	中日新聞社、中日新聞社会事業団	本部、愛知・三重県内の総支局など
11/30	令和7年度三重県母子寡婦福祉大会	後援	三重県母子寡婦福祉連合会	三重県社会福祉会館
12/5～7	尾西作家協会チャリティー展	後援	尾西作家協会	一宮市三岸節子記念美術館
12/6	第64回愛知県身体障害者福祉大会	後援	愛知県身体障害者福祉団体連合会、知立市身体障害者福祉協議会	知立市文化会館
12/6	第43回愛知県心身障害児(者)福祉大会	後援	愛知県心身障害児(者)福祉団体連絡協議会 共催：愛知県社会福祉協議会	愛知県社会福祉会館
12/7	第24回あいち障害者フライングディスク競技大会	共催	あいち障害者フライングディスク協会 共催：中日新聞社会事業団	愛知県体育館
12/13	令和7年度愛知県母子寡婦福祉大会	後援	愛知県母子寡婦福祉連合会	ウィルあいち 愛知県女性総合センター ウィルホール(4階)
12/14	令和7年度福祉の星フォーラム	後援	愛知県社会福祉協議会、中日新聞社、中日新聞社会事業団、NHK名古屋放送局、NHK厚生文化事業団	愛知学院大学 名城公園キャンパス
12/14	第7回名美歳末チャリティー茶会	後援	名古屋美術商協同組合 共催：名古屋美術倶楽部	名古屋美術倶楽部
12/20	2025中日青葉学園招待スケート教室	主催	中日新聞社会事業団 共催：名古屋スポーツセンター	大須スケートリンク
12/20	日本特殊陶業株式会社がお贈りする第13回ファミリーミュージカル「長靴をはいた猫」	後援	日本特殊陶業株式会社	日本特殊陶業市民会館フォレストホール
12/20	BERITA presents ISOGAI花火劇場in名古屋港	後援	ISOGAI花火劇場	名古屋港ガーデンふ頭
12/20～21	少年少女合唱団 地球組25周年記念コンサート 『かわらないこと』	後援	少年少女合唱団 地球組	日本特殊陶業市民会館 ビレッジホール
12/21	第58回交通遺児を励ます大会	後援	東海交通遺児を励ます会	サイプレスガーデンホテル
12/26	令和7年度第16回愛知県児童福祉施設フットサル大会	共催	愛知県児童福祉施設長会 共催：中日新聞社会事業団	日進市スポーツセンター
1/5～6	令和7年度 名古屋市ファミリーホーム協議会スキー行事	後援	名古屋市ファミリホーム協議会	池の平スノーパーク、白樺高原ホテル
1/14～3/8	つむぎの展「めぐり」	後援	幸せつむぎ	愛知県美術館、松本市美術館
1/17～18	令和7年度第23回スキー村	共催	愛知県児童福祉施設長会 共催：中日新聞社会事業団	伊那スキーリゾート、すずらん颯
1/18	第28回あした天気にな～れ～誰もが安心して暮らせる街づくり～	後援	愛知県精神保健福祉士協会 共催：名古屋市、愛知県精神科病院協会、愛知県精神科医会、愛知県精神障害者家族会連合会、名古屋市精神障害者家族会連合会	ウィルあいち、オンライン
1/24～26	第49回世界の貨幣まつり	後援	日本貨幣商協同組合	ウインクあいち8階展示場
1/27～2/1	第63回特別支援教育展「きらめき展」	共催	名古屋市教育委員会、名古屋市立小中学校長会、名古屋市特別支援教育研究協議会 共催：中日新聞社会事業団	名古屋市民ギャラリー栄

事業一覧（本部）				
開催日	事業	連携	主催者	会場
2/3～8	2026みんなのアート展あいち	後援	愛知県知的障害者福祉協会	豊川市桜ヶ丘ミュージアム
2/3～3/13	第44回障害者作品即売会「福祉の店」	後援	愛知県、名古屋市、愛知県セルフセンター、愛知県知的障害者福祉協会、愛知県社会福祉協議会、名古屋市社会福祉協議会、愛知県身体障害者福祉団体連合会、名古屋市身体障害者福祉連合会	イオンモールナゴヤドーム前ほか
2/8	令和7年度第40回愛知県児童福祉施設親善マラソン大会	共催	愛知県児童福祉施設長会 共催：中日新聞社会事業団	サンテパークたはら
2/11～2/15	第60回名古屋市障害者作品展示会	後援	名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連合会	市民ギャラリー矢田
2/13～14	東海カンファ2026(第13回東海特別支援教育カンファレンス)	後援	東海特別支援教育カンファレンス実行委員会	オンライン、オンデマンド配信
2/14	NHKハートフォーラム 名古屋市発達障害者支援センターりんくす名古屋 講演会「実は身近な発達障害」	後援	名古屋市発達障害者支援センターりんくす名古屋、NHK名古屋放送局、NHK厚生文化事業団	ウイंकあいち
3/3	第14回あい・い・ち・ふ・く・しシンポジウム	共催	愛知県社会福祉協議会、中日新聞社 共催：中日新聞社会事業団	ミッドランドホール
3/6	令和7年度地域共生社会推進セミナー	後援	愛知県社会福祉協議会	ウィルあいち
3/8	第32回全日本選抜フロアバレーボール愛知大会 ANGEL CUP2026	後援	愛知県フロアバレーボール協会	IG Arena 愛知国際アリーナ サブアリーナ
3/15	第54回 中学を卒業する交通遺児を励ます集い 二十歳を迎える交通遺児を励ます集い	後援	東海交通遺児を励ます会	サイプレスガーデンホテル
3/20	第21回日本ブラインドテニス中部日本大会	後援	日本ブラインドテニス連盟中部地域協会 共催：日本ブラインドテニス連盟(JBTF)	名東スポーツセンター
3/22～27	第40回愛知動作法療育キャンプ	後援	第40回愛知動作法療育キャンプ実行委員会	坂井温泉 湯本館

事業一覧（北陸支部）				
開催日	事業	連携	主催者	会場
7/1～31	乳児院に図書カードを贈呈	主催	中日新聞社会事業団北陸支部	石川県、富山県内の乳児院
5/2～5/24	児童養護施設入所児童を北陸中日新聞主催 展覧会「こうの史代展」に招待	主催	中日新聞社会事業団北陸支部	金沢21世紀美術館
11/1	第43回金沢手をつなぐ親の会水泳大会	後援	金沢手をつなぐ親の会	金沢市西部市民体育館プール
11/25～12/26	年末助け合い運動	主催	中日新聞社会事業団北陸支部	石川・富山県の障がい者就労施設（贈呈は2月）
3/1～31	大井中日就学（職）支援金贈呈	主催	中日新聞社会事業団北陸支部	石川県内の児童養護施設

事業一覧（東海）

開催日	事業	連携	主催者	会 場
4月～3月	児童養護施設すみれ寮入所者の誕生祝補助	主催	中日新聞社会事業団東海支部	児童養護施設すみれ寮 (浜松市)
5月	静岡県ボランティア協会 年次レポート発行への助成	後援	特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会	静岡県
5/31	東海地区盲学校第26回フロアバレーボール大会	後援	東海地区盲学校体育連盟	小笠山総合運動公園エコパ (袋井市)
7/16	第42回スズキビジネスチャリティゴルフ大会	後援	スズキビジネスチャリティ ゴルフ大会実行委員会	いなさゴルフ倶楽部 浜松コース(浜松市)
8/1～8/31	浜松市内ひとり親世帯小・中・高生へ学業奨励(新聞購読)事業	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内
8/13	#あなたを忘れない 白いカーネーションプロジェクト	後援	FITデザイン研究所	ツインギャラリー蔵(浜松市)
8/21	静岡県児童福祉施設夏季スポーツ交流会	後援	静岡県児童養護施設協議会	狐ヶ崎ヤングランドボール (静岡市)
8/23	プロ野球ウエスタン・リーグ公式戦 「中日VSくふうハヤテ」に児童養護施設入所者招待	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松球場
10/16	第42回中日ボランティア賞贈呈式	主催	中日新聞社会事業団東海支部	ホテルコンコルド浜松(浜松市)
11/22,23	第44回ふるさと知名人チャリティー色紙展	主催	中日新聞東海本社 中日新聞社会事業団東海支部	遠鉄百貨店イ・コ・イ スクエア6階 ギャラリー・ロゼ(浜松市)
11/29	第38回静岡オレンジマラソン大会	後援	静岡県知的障害者福祉協会 静岡県手をつなぐ育成会 (特非)静岡見作業所連合会・わ	静岡県草薙総合運動場 (静岡市)
11/25～12/26	年末助け合い運動	主催	中日新聞社会事業団東海支部	中日新聞東海本社ほか 静岡県内
12/10	第43回スズキビジネスチャリティゴルフ大会	後援	スズキビジネスチャリティ ゴルフ大会実行委員会	いなさゴルフ倶楽部 浜松コース(浜松市)
12/12	静岡県西部地区生活保護家庭の中学生に 図書カード贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	静岡県西部地区
12/19	静岡県西部地区児童養護施設出身大学生 らへ年末生活支援一時金贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	静岡県西部地区児童養護施設
2/22	第47回静岡県ボランティア研究集会	後援	特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会ほか	伊東市生涯学習センター ひぐらし会館
2/19	静岡県西部地区生活保護家庭 小学校新入 学児童に図書カード贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	静岡県西部地区
3/6	児童養護施設入所の新小学1年生ヘラント セル贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	静岡県西部地区児童養護施設
3/18	社会福祉事業資金造成 第42回中日杯争 奪チャリティーゴルフ大会	主催	中日新聞東海本社 中日新聞社会事業団東海支部	豊岡国際カントリークラブ (磐田市)
3/24	児童養護施設入所の中学卒業者へお祝い 金贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	静岡県西部地区児童養護施設

事業一覧（東京支部）				
開催日	事業	連携	主催者	会場
6～3月	社会福祉施設への助成	主催	中日新聞社会事業団東京支部	関東各都県の社会福祉施設
11/25-12/26	年末助け合い運動	主催	東京新聞、中日新聞社会事業団東京支部	東京支部

事業一覧（岐阜支部）				
開催日	事業	連携	主催者	会場
毎日	チャイルドラインぎふヘルプライン	後援	チャイルドラインぎふ	チャイルドラインぎふ事務所
毎月	認知症介護者のつどい	後援	認知症のひとと家族の会岐阜県支部	岐阜中日ビル など 県内各地14会場
毎週火木金	精神障がい者家族に対する相談 (年間144回開催)	後援	岐阜県精神保健福祉会連合会	岐阜県精神保健福祉会連合会事務所
毎月第2水曜	薬物依存症医療電話相談(年間10回開催)	後援	岐阜ダルク	岐阜ダルク事務所
5/1～3/31	笠松刑務所花苗寄贈	後援	笠松刑務所篤志面接委員協議会	笠松刑務所
5/18	市民公開講座 脊柱管狭窄症の治療について	後援	岐阜県腎臓病協議会	岐阜県福祉農業会館
6/14～15	文部科学大臣杯日本車いすツインバスケットボール選手権大会	後援	東海車いすツインバスケットボール連盟	岐阜メモリアルセンター
6/15～7/27 11/8～12/14	精神保健福祉会連合会家族学習会	後援	岐阜県精神保健福祉会連合会	各務原市総合福祉会館、大垣市総合福祉会館
6/28、7/20、 8/10	身体表現ワークショップ	後援	岐阜ろう劇団いぶき	岐阜市本荘公民館、岐阜聖徳学園大、岐阜市喫茶星時
8/5～18 10/7～20 1/14～26	ふれあいアートステーションぎふ作品展	後援	岐阜県身体障害者福祉協会	岐阜中日ビル 北側掲示板、南展示ケース
9/7	犯罪被害者支援講演会	後援	ぎふ犯罪被害者支援センター	岐阜清流文化プラザ
9/27～28	言友会中部大会	後援	岐阜言友会	じゅうろくプラザ
9/28	視覚障害者福祉協会文化祭	後援	岐阜県視覚障害者福祉協会	中津川市中央公民館
9/28	市民公開講座 CKD(慢性腎臓病)対策講演会	後援	岐阜県腎臓病協議会	岐阜県福祉農業会館
10/4～5	CPサッカーフェスティバル2025	後援	日本CPサッカー協会	新日本ガス球技メドウ
10/6	芋堀り、日本児童育成園訪問	後援	岐阜少年友の会	美濃市生櫛、日本児童育成園
10/12	医療講演会	後援	岐阜県網膜色素変性症協会	じゅうろくプラザ
11/1	岐阜県特別支援学校体育連盟チャレンジ陸上競技大会	後援	岐阜県特別支援学校体育連盟	岐阜メモリアルセンター
11/9	中部学院全国手話スピーチコンテスト	共催	中部学院大学、同短期大学部	中部学院大学各務原キャンパス
11/16	市民公開講座 IPS細胞による腎臓再生医療	後援	岐阜県腎臓病協議会	ココロかさなるCCNセンター
11/23	全国身体障害者グラウンドゴルフ岐阜大会	後援	岐阜県障害者スポーツ協会	岐阜メモリアルセンター
11/23	聞こえのサポートフェア	後援	ぎふ難聴者協会	美濃加茂市生涯学習センター
11/23～24	東海北陸静岡ブロック研修会	後援	日本ファミリーホーム協議会 東海北陸静岡ブロック	長良川スポーツプラザ
11/25～12/26	年末助け合い運動	主催	中日新聞社、中日新聞社会事業団岐阜支部	中日新聞岐阜支社など
12/6	東海地区盲学校ゴールボール大会	後援	東海地区盲学校体育連盟	岐阜県福祉友愛アリーナ、希望が丘特別支援学校
12/13	岐阜県特別支援学校体育連盟駅伝競走大会	後援	岐阜県特別支援学校体育連盟	岐阜県百年公園
12/13～14	岐阜市民芸術祭演劇の部 公演	後援	岐阜ろう劇団いぶき	岐阜市文化センター
1/15	高齢受刑者指導	後援	岐阜刑務所篤志面接委員協議会	岐阜刑務所

2/5	中日ロボラぎふ就学(職)支援金 贈呈	主催	中日新聞社会事業団岐阜支部	中日新聞岐阜支社
2/5	乳児院図書カード贈呈	主催	中日新聞社会事業団岐阜支部	中日新聞岐阜支社
3/8	ぎふ要約筆記かがり火講習会	後援	ぎふ要約筆記かがり火	岐阜市民福祉活動センター

〈高額寄付一覧〉

当年度の本部、各支部、青葉学園へ的高額寄付は次の通り

高額寄付(一般)

(令和7年4月～令和8年3月)敬称略、順不同

本 部 (20万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
日本特殊陶業	名古屋市	名古屋美術商協同組合	名古屋市
ネットヨタ中部	名古屋市	おおやま歯科医院	名古屋市
成田山名古屋別院大聖寺	犬山市	第一生命労働組合中京総合支部	名古屋市
成田山索の会	犬山市	新東工業	名古屋市
東邦液化ガス	名古屋市	名古屋競馬	名古屋市
愛知県指定自動車教習所協会	名古屋市	NTPホールディングス	名古屋市
陶工房鳴海	名古屋市	愛知県遊技業協同組合	名古屋市
日本ダンス議会中部総局	名古屋市	第一生命労働組合名古屋総合支部	名古屋市
中央電気工事	名古屋市	サンデーフォークプロモーション	名古屋市
愛知県タクシー協会	名古屋市	五月会	名古屋市
美浜インビテーショナルレジェンズ岡 本綾子カップ	美浜町	稲沢市職員互助会	稲沢市
		東海マツダ販売労働組合	名古屋市
総健歌謡クラブ	小牧市	知多信用金庫	半田市
中部シニアライフアドバイザー協会	名古屋市	トリックス	津市
真城ホールディングス	名古屋市	愛知県中古自動車販売商工組合	飛島村
松本三良記念福祉会	東海市	東レ岡崎工場	岡崎市
桜木不動産コンサルタント	名古屋市	東レ・モノフィラメント	岡崎市
石原住宅	名古屋市	三宝建設	刈谷市
協栄興業	東海市	森 隆彦	一宮市
協栄会・協友会	東海市	小島 夕起子	名古屋市
東郷産業	名古屋市	大矢知 徳昌	四日市市
JA愛知西女性部	稲沢市	遠藤 英俊	稲沢市
リゾートトラスト	名古屋市	荒川 光夫	名古屋市
萩原電気ホールディングス	名古屋市	齋藤 亨	豊山町
中部日本書道会	名古屋市	アスク環境開発	名古屋市
愛知信用金庫	名古屋市	尾西信用金庫	一宮市

北 陸 支 部(10万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
石川近鉄タクシー・同労働組合	金沢市	石川交通株式会社	金沢市
こばと保育園・こばと第2こども園	小松市	頭川 博	高岡市

東 海 支 部(10万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
アベル株式会社	浜松市	浜松倉庫株式会社	浜松市
浜松ロータリークラブ	浜松市	大村 不二郎	浜松市
浜松仏教会	浜松市	竜ヶ岩洞	浜松市
第44回ふるさと知名人チャリティー色紙展	浜松市	第42回中日杯争奪チャリティーゴルフ大会	磐田市

東 京 支 部(10万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
ちば興銀ともしびの会	千葉市		

岐 阜 支 部(10万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
岐阜社会福祉事業協力会	岐阜市	水都タクシー労働組合	大垣市
弘文社	岐阜市	中部日本書道会岐阜支部	本巣市
岐阜信用金庫	岐阜市	中部日本書道会濃飛支部	恵那市
岐阜県指定自動車教習所協会	岐阜市	イシデンエンジニアリング	恵那市
岐阜ゾンタクラブ	岐阜市	石原電機工業	中津川市
ぎふ国際高校 生徒会	岐阜市	複合資材	安城市

中日青葉学園(20万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
東洋モーターインターナショナル	一宮市	中日ドラゴンズ	名古屋市
兼松エレクトロニクス	名古屋市	6R 2Z ZC杯チャリティーゴルフ大会	春日井市
中日総合サービス 従業員一同	名古屋市	酒井 文雄	名古屋市

* 匿名は省略しております

高額寄付(指定)

(令和7年4月～令和8年3月)敬称略、順不同

本部(20万円以上)		
団体名(会社名)	市町村名	贈呈先
名古屋栄ライオンズクラブ	名古屋市	日本介助犬協会
豊田自動織機	刈谷市	大相撲名古屋場所招待
名古屋溜会	名古屋市	大相撲名古屋場所招待
愛知県指定自動車教習所協会	名古屋市	東海交通遺児を励ます会
愛知日野自動車 親和会	名古屋市	東海交通遺児を励ます会
愛知県中古自動車販売商工組合	飛島村	東海交通遺児を励ます会
おおやま歯科医院	名古屋市	名古屋市内NPO法人など
徳弘 妙子	名古屋市	中部盲導犬協会

*匿名は省略しております

社会福祉法人 中日新聞社会事業団

	所 在 地
本 部	〒460-8511 名古屋市中区三の丸一丁目6番1号 中日新聞名古屋本社内 Tel. 052-221-0580 Fax. 052-221-0839
北 陸 支 部	〒920-8573 石川県金沢市駅西本町二丁目12番30号 中日新聞北陸本社内 Tel. 076-233-4644 Fax. 076-233-7831
東 海 支 部	〒435-8555 静岡県浜松市中央区薬新町45番地 中日新聞東海本社内 Tel. 053-421-7711 Fax. 053-421-5987
東 京 支 部	〒100-8505 東京都千代田区内幸町二丁目1番4号 中日新聞東京本社内 Tel. 03-6910-2520 Fax. 03-3580-5452
岐 阜 支 部	〒500-8875 岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地 中日新聞岐阜支社内 Tel. 058-265-0283 Fax. 058-263-7010
児童養護・児童心理治療施設 中 日 青 葉 学 園	〒470-0131 愛知県日進市岩崎町竹ノ山149-164 Tel. 0561-72-0134 Fax. 0561-74-2315
中日青葉学園三つ葉	〒470-0131 愛知県日進市岩崎町小林131番地